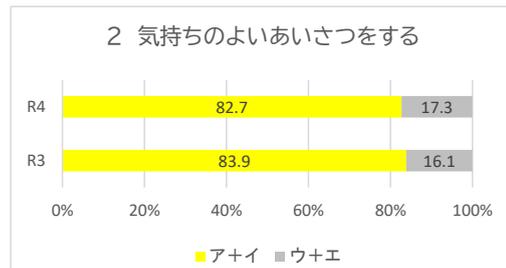
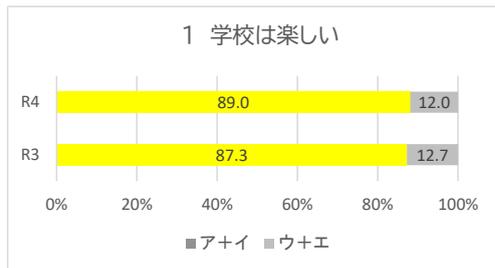
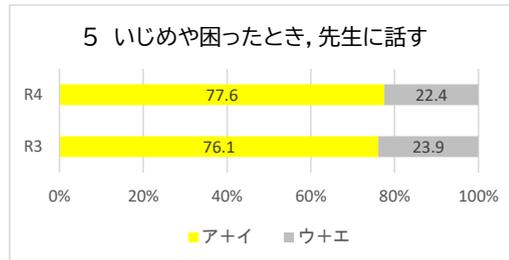
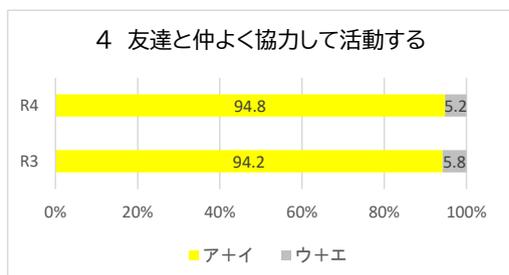
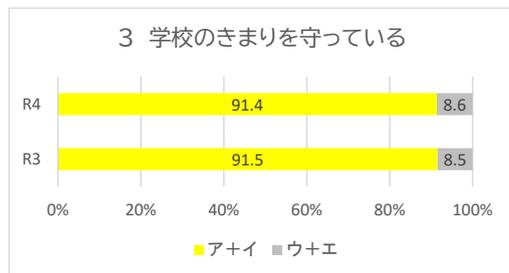


## 令和3年度・令和4年度 学校生活児童アンケート結果と考察



1の「学校生活の楽しさ」については、89.0%がア・イ(できている)と回答し、ほとんどの子どもたちは楽しく学校生活が過ごせていることがわかる。しかし、あまり楽しく思っていない児童が11.0%いることから、すべての子どもにとって学校生活が楽しくなるよう魅力ある教育活動を展開するとともに、家庭との連携を図りながら個々の子どもの思いや願いを受け止め、改善を図っていききたい。

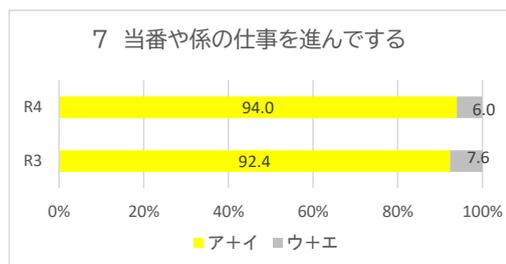
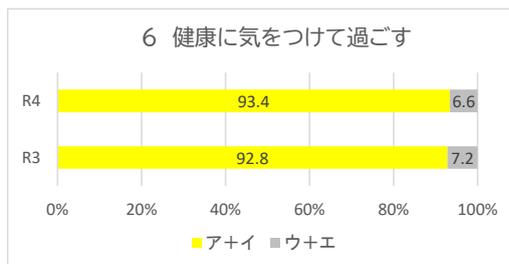
2の「気持ちのよいあいさつ」については、ここ数年、千松小学校の重要課題として年間を通して全校で取り組んでいるが、ア・イと回答した子どもが82.7%と、昨年度に比べ若干下がっている。今年度は、児童会(いじめ防止子ども委員会)が中心となり、代表委員会で「あいさつスローガン」や「あいさつ週間」について話し合い、子どもたちが主体的にあいさつ運動に取り組んだ結果、一定の期間はあいさつができた人の数を大幅に伸ばすことができた。しかし、あいさつ週間が終わるとその数も減少してしまい、一部の子どもだけが元気に進んであいさつができる状況となってしまっている。学校全体で子どもたちにあいさつの大切さについて理解を図り、自分から進んで気持ちのよいあいさつができるよう啓発し続けていきたい。また、学校外でもあいさつの輪が広がっていくよう、家庭や地域と連携を図っていききたい。



3の「きまりを守る」については、91.4%がア・イと回答し、昨年度より0.1ポイント下がっている。学校のきまりや身に付けてほしい生活習慣、学習習慣をまとめた「よくわかる千松小学校」や「光る子10か条」を各家庭に配布し、家庭でも協力いただき、年々定着してきている。日々の学級指導、朝会等の全体の場における生徒指導の積み重ねが大切であるため、今後も教職員が同一歩調で継続して指導を行い、子どもたちの規範意識をさらに高めていきたい。

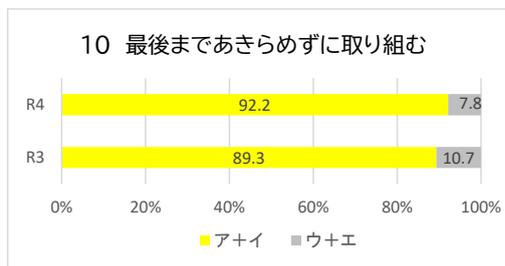
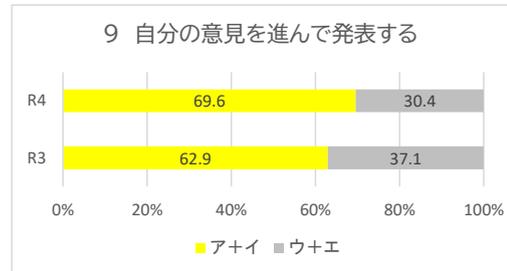
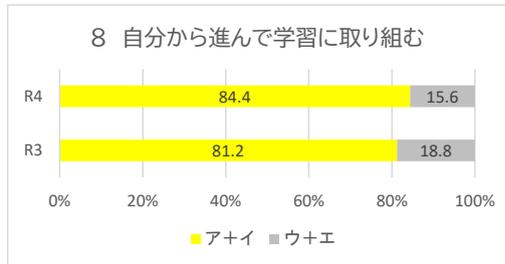
4の「友達と仲よく協力する」については、94.8%がア・イに回答している。子どもたちの毎日の生活において「友達と仲よく協力する」ことは、「学校が楽しい」や「いじめをなくす」に直結している。今後も、相手のことを思いやり、誰とでも分け隔てなく仲よく協力できる子どもを育てていきたい。

5の「いじめや困ったことを先生に話す」については、ア・イの回答が平成29年度に70.9%だったのが、年々上昇し、今年度は77.6%になっている。「いじめ」の早期発見、早期対応のためにも、一人で抱え込まず誰かに相談できる力を伸ばすと同時に、子どもに寄り添った教育の実践に努め、子どもの信頼関係を深めていきたい。



6の「健康に気をつける」については、93.4%がア・イと回答し、昨年度よりも0.6ポイント、一昨年度からは2.1ポイント上昇している。新型コロナウイルス感染症の流行にともない、毎朝の検温、手洗いや手指消毒、マスクの着用、換気等、子どもたち一人一人がコロナ予防を常に意識した学校生活を過ごすことで、定着してきたことが影響していると考えられる。しかし、コロナのために、子どもたちの運動不足や肥満傾向がこれまで以上に心配されており、外遊びの奨励や体力増進に努めていく必要がある。健康をあまり意識して過ごすことができていない6.6%の子どもたちに対して、保健学習の充実を図り、家庭との連携を図りながら自分の健康や安全を守っていくことができるようにしていきたい。

7の「当番・係活動」については、94.0%の子どもたちがア・イと回答している。多くの子どもたちが自分の役割をきちんと果たすことができている。委員会活動や清掃活動、給食当番も責任をもって行うことができている。今後も人のために働く喜びや達成感を味わわせることを通して、子どもたちの学校生活の充実を図っていきたい。



8の「自分から進んで学習に取り組む」については、84.4%がよく取り組んでいるが、昨年度に比べ3.2ポイント上がっている。9の「自分の意見を進んで発表する」では、ア・イと回答した子どもが69.6%で、昨年度よりも6.7ポイント上がっていることに加え、他の質問項目よりア・イの回答率がかなり高くなっている。本校では昨年度まで2年間をかけて、国語科教育の研究に取り組んできた。研究の中で、子どもたちが主体的で、対話的な学習ができるように授業力の向上を図ってきており、主体的、意欲的に学習に取り組む多くの児童の姿が見られた。今後も教職員の研修を充実させ、特に本校児童が苦手とする「自分の意見を進んで発表する力」を伸ばすために、授業の中で子どもの表現力の伸長を図り、自分の意見を人前で堂々と表現できる子どもを育てていきたい。

10の「最後まであきらめずに取り組む」では、90%を超える子どもたちが自分を伸ばすために何事にもあきらめず前向きに取り組んでいる。しかし、8%近くの子どもの消極的な回答をしている。何かに取り組む際に、少しの失敗ですぐにあきらめてしまうことがないように、発達段階に応じた様々な体験活動の充実や、達成感を実感できる活動の工夫を図っていきたい。